



國道ドライブの漫談

繰延削減居士

一 京津國道の安宅の關

政界の嵐をよそに春の旅。あまの子
なればところ定めず。烟霞の旅には豫
定もなければ日程もなし。四月五日の
夜は京都で都おどりを見物し、六日の
午後は圓タクを奢て新粧の京津國道を
走らせる。蹴上げを過ぎて行く事數哩
國道の真ン中にレールを逆茂木と押し

立て、通行禁止内務省と云ふ表札の下
に鬚いかめしい御役人が頑張て居る。
御見受けしたところ舗装も立派に出來
あがつて居るやうですが通行してはい
けないのですかと伺ひを立てると官吏
乗用の自動車以外は通行罷り成らんと
の事である。泣く泣く圓タクを歸して
立派な舗装道路を歩いて行く。天津市

近くでは滋賀縣の受持で工事中である
が、盛に堀り返しゴツタ返して居る中
を都合して兎も角も自動車を通して居
る。世間に採まれて苦勞して居るだけ
に地方廳の御役人の方が話しが分かる
と見える。

三井寺の櫻の蕾はまだ固く、日芳園
の梅は盛りを過ぎて居た。滋賀縣廳に
友人を訪ねて以上の經驗を話すと、あ
すこは餘程前から竣工して居るのです
が、どうゆうわけか自動車を通しませ
ん。私共は滋賀縣廳の者だと云ふと通
して呉れますが一般の人々は随分迷惑
をして居るやうです。中央の御役人の
考は吾々には分りませんが、時局匡救
費でやる仕事だから成る可く失業者や
窮民を澤山使はうと云ふ御親切から、

工事が出来上つても、交通妨害の係員を置いて日給を拂て居るのでしやうと云ふ皮肉な返事であつた。

竹清樓で晩飯をすませて夜圓タクで京都に歸る。今度は安宅關には番人が居ないので、大手を振つて京都まで走り飛ばした。交通妨害係りも執務時間を過ぎたので歸宅されたのであらう。春の愉快なナンセンスである。

二 京阪國道のヒヨロヒヨロ松

四月七日は快晴の天氣に勇み立て京都から大阪まで新國道を走り飛ばす。東寺の側はまだ工事中であるが、それから先きは氣持のよい自動車道路である。ところが御幸橋を涉て數哩走ると堤防上の道路の中にとどこころにヒヨロヒヨロ松の樹が残してあつて邪魔

になる事夥しい。噂に聞けば大阪府の某課長が頑張て伐らせなかつたのだそうであるが、之が名勝舊蹟とか老松巨木とでも云ふのであるなら格別だが、場末の文化住宅の玄關側にザラに見られるヒヨロヒヨロ松を、かくまで優待せられるとは走行の圓タクに取ては随分迷惑な話である。

枚方の町の側はまだ工事中であつたので狭い舊道をすれ違ひの荷馬車に惱まされて轉た新道の有難味を味はされた。之から先きの新道は竣工後餘り時日を経過して居らんに鋪装は散々に破壊されて醜女のあばたの如きデツドロードになつて居る。早く修繕をしたらよさそうなものだが、豫算が乏しいのか、御役人の見廻りがいいのか知ら

ぬが、貧弱な圓タクは散々の難行を續けた。ところが市中に入ると市郡の境から都島まで電車の通て居る道路がまだ鋪装もして無い。成程市の管理の道路がこのまゝでは府の管理の國道の鋪装を完全にしたら、府市の御つきあひが圓滿を缺く虞ありと云ふ御心使ひもあるのかも知れぬ。御尤も千萬な事である。

北濱二丁目の交叉點に「守れ信號、四隅に注意」と云ふ大きな建札があつて、其最中に伊勢大神宮の繪が掲げてある。近くに寄て見ると大軌の參宮線の廣告である。交通標語を書かせる代りに廣告板を許すところなど流石に大阪の警察は場所柄算盤高いものだと感心した。

明日天氣が宜しければ三たび圓タクを奮發して阪神、神明の國道を飛ばせて見るつもり。又々どんな邪魔物にぶ

つかるやら心配な事である。(四月七日夜記)

政海の凝視

白洋漁夫

議政を凝視したるときに堂々たる衆議院が如何にも無力に無爲に無能に映ぜられたことは前號に投稿したが翻つて政海を見つむるときに我輩の眼底に如何なる印象をか投影せらるるか考へて見たい。次の政權獲得の爲めに政友會は軍部に對する諒解を求め地方の産業資本家中小商工業者地主階級にも渡をつけて居るが更らに大資本家連中が既成政黨を通じて政治上に資本家財

閥として其の威力を示すよりは直接時の政府者に對し働きかけることが遙かに捷徑であることを自覺し高橋藏相三土鐵相山本内相達に黨籍離脱さへ勸説せる者があることを耳にしたので工業俱樂部を中心とせる大資本家財閥組に向つて秋波を送つておると傳へられて居る、其の眞偽は我輩の窺知することを得ない處であるが政友會最負の一人は如何にも憤慨して「政友會の此頃

の行動は政權獲得にあせりにあせるので此行動を見ると不快極まる」と言つた事を耳にした、三百の議員を有し議院内では爲さんと欲して爲し能はざる處なき第一黨として其の眞意が那邊に存するかは判明しないが兎にも角にも議會を唯一の舞臺とせる政黨として其無力振を發揮するものとの觀察を下さるゝのは必然的である。此事象を見れば政海の指導能力は必しも多數黨に非らざることを證明したるものにあざむるか非か。又眼を轉じて第二黨たる民政黨を觀るに隱忍自重所謂十年の苦節を確守したる體験に出でたる態度なるか否は推知することを得ざるも唯政權が政友會に獲得せられざらんことを望むが爲めに政黨の威力を發揮すること